

技術確認圃 報告書 記入例 (畑作・冬作・野菜・花き除草剤1)

薬剤名 ○○○液剤
 県名 ●●県

作物 **ダイズ**
 実施場所 ○○普及センター(○○市)

圃場/面積	作型	土質土性	品種	耕起日	播種日	定植日	備考
確認圃 16 a	狭畦栽培	埴壤土	□□□□	20○○年5月27日	20○○年6月1日	—	
慣行 16 a	狭畦栽培	埴壤土	□□□□	20○○年5月27日	20○○年6月1日	—	

圃場 (面積)	処理 回数	薬剤名 薬量(水量)(/10a)	処理日	処理方法、 処理時土壌の乾湿	作物生育程度	処理時の状況 雑草発生(雑草名・草丈・葉齢・発生程度)
確認圃	処理 1回目	□□□乳剤 400mL(100L)	6月3日	乗用管理機(土壌処理(全面)) 適湿	播種後 出芽前	未発生
	処理 2回目	○○○液剤 200mL(100L)	7月12日	乗用管理機(茎葉処理(畦間)) やや乾	6~8葉期	シロザ10cm、スベリヒユ5cm、 イヌタバ8cm、ナズナ5cm
	処理 3回目					
委託薬剤以外の除草剤の処理についても記入する。	処理 1回目	□□□乳剤 400mL(100L) ●●●乳剤 250mL(100L)	6月3日	乗用管理機(土壌処理(全面)) 適湿	処理時土壌の乾湿: 乾・やや乾・適湿・湿 の4区分	未発生
			7月12日	乗用管理機(全面茎葉処理) やや乾		m、シロザ10cm、スベリヒユ5cm、 イヌタバ8cm、ナズナ5cm

乾物重、生体重のいずれかを記入。

処理後の日数を記入。

圃場	除草効果 (残草量g/m ²) 生体重				雑草調査日: 7月30日 (処理18日後)		薬害		評点
	イネ科一年生	広葉一年生	多年生雑草		総計 下段()は慣行区比	症状・程度	収量比 対慣行		
確認圃	イヌビエ	シロザ	メヒシバ	ナズナ	8	1.1	なし	100%	A
慣行	3.2				2	0.9			

効果の確認ができていないと判断する場合は、「-」をつけ、草種名が記載されている列には必ず数値または、「-」を記入。

上段: 残草量
下段: 慣行区比

5.6 (69%)

無処理区での発生雑草(発生程度):
 イヌビエ(多) メヒシバ、シロザ、スベリヒユ、イヌタバ
 発生量が多い草種には、(多)を記入する。

・処理時の情報(散布時間、作業人数、農家のコメントなど)があれば記入する。
 注) 散布準備時間、散布時間を記載する場合は確認圃で実際にかかった時間を記入し、10a当たりなどに換算している場合は、○/10aのように記入する。
 評点が「-」の場合、その理由を記入する。
 残草が多い場合、問題となる薬害が発生した場合は詳細を記入する。
 気象条件、水管理、雑草発生状況等で通常と異なることがあれば記入する。